

## 「一学一山運動」趣意書

森林面積率 67%。

先進国の中で最も高いこの数値は、日本が世界に誇るべき自然環境を有していることを表しています。

しかしながら戦後の林業の衰退により、森林の多くは手入れがなされないまま現在まで放置されています。一度人間が手を入れてしまった森林は、永久に人間が保護し続けなくてはなりません。放置された森林は、生態系が狂い、土壌が痩せて地盤がゆるみ、土砂崩れなどの災害により被害の拡大にもつながりかねない事態を引き起こす恐れがあります。そして現在、その森林を保全する人手が圧倒的に足りません。

そこで私どもは、わが国の自然環境を護るために、全国の大学が連携した日本全土にまたがる環境保護運動を提唱いたします。

ひとつの大学が、ひとつの自然環境を守り続け、後世に受け継いでいく運動。それが『一学一山運動』です。

近年になって、全国各地の大学において身近な自然を護るための運動が活発に行われはじめました。ひとつひとつの活動は小さなものかもしれませんが、しかし、こうした全国の大学同士が『一学一山運動』の名の下で手を取り合うことによって、日本が誇るべき豊かな自然を後世に残す取り組みがさらに大きな運動体となりうるのです。

活動対象は、山でも森林でも、河川でも湖沼でもかまいません。地域の実情やニーズにあわせた活動をすることで、「大学と学生による教育的社会貢献活動」と同時に「将来を担う子どもたちの自然体験活動」を叶え、地域独自の社会貢献活動ならびに教育活動を、大学を発信源にして社会に広めることを目指します。

高度経済成長の時代から現在まで、大学という存在は、最高学府の場であると同時に「地域のシンボル」でもありました。多くの若い才能が集うことで、地域社会の発展に貢献していく。そんな力を持つ存在でした。そしてこれからの時代、大学は、地域や社会の環境に貢献していくべき存在にもなるべきです。

大学は、街をつくるだけでなく、地域の環境を守る存在にもなれる。

『一学一山運動』を通してそれが叶えられれば、大学の持つ意義が地域で大きく前進する。私たちはそう考えています。

『一学一山運動』に全国約700の大学すべてが参加することは、すなわち700もの山や森林が護られることとなります。大学が中心となって自然環境を守っていく。この日本初の試みに、貴大学も御賛同いただければ幸いです。

2006年9月

「一学一山運動」実行委員会 実行委員長 **奥島考彦**  
(早稲田大学 学事顧問・前総長)